

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 4 月 22 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11946

研究課題名(和文)危機管理能力に優れた国際看護領域の人材育成のための教育モデルの開発研究

研究課題名(英文)Development of the education model for rearing nurses for international nursing field with the ability of risk management

研究代表者

新地 浩一 (Shinchi, Koichi)

佐賀大学・医学部・教授

研究者番号：30404164

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：実践的な国際看護教育のプログラム開発を実施した。国際緊急援助活動の災害看護活動の経験の豊富な看護職者の協力を得て、自記式質問票を使用した横断研究により、「看護系大学において、どのような教育が実践的な災害看護活動に必要なと思うか？」について自由記載の質問を行い、その回答を、内容分析により解析した。その結果をもとに、教育方法の検討を実施した。その結果、65項目の回答が得られた。それらを分類した。その結果より、教育に重要な6項目に整理統合した。それらの項目は、1)シミュレーション教育、2)国際看護の知識、3)看護基礎教育、4)コミュニケーション能力、5)人間性の涵養、6)感染症対策であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「国際看護活動の現場においては、限られたマンパワーや医療資源のもとで、保健医療活動を行わなくてはならない。それゆえに、国際看護の分野で活躍する看護師の人材育成を推進するためには、学部生レベルにおける実践的な教育プログラムの開発が必要不可欠である。そこで、国際看護教育におけるシミュレーション演習を含む教育モデルを開発した。今回開発した SINCHI 式教育モデルを除くと、体系化されたものはほとんど見当たらない。特に、学部生レベルの教育において、国際協力活動に不可欠な教育の項目を抽出し、国際看護に関する専門的知識と技術を携え、国際看護を実践する看護職を育成する教育モデルとなった。

研究成果の概要(英文)： Practical educational model for risk management and disaster nursing has not yet been established in Japan. In the present study, a model of disaster medical education for practical risk management and disaster nursing was proposed. The open-ended question, "What kind of nursing education is necessary for risk management and practical activities in disaster response?" was asked to 17 expert nurses who had experience of participation in past international disaster relief operations. The responses were analyzed qualitatively and educational model was developed. Subsequently, the "SINCHI education model" was proposed for practical disaster nursing education; it comprises six elements: (1) Simulation exercise and small-group work; (2) International nursing knowledge; (3) Nursing skills and knowledge, including disaster nursing; (4) Communication ability promotion; (5) Humanity, responsibility, and flexibility; and (6) Infection prevention and control.

研究分野：国際看護

キーワード：国際看護 災害看護 教育

1. 研究開始当初の背景

近年、グローバル化の時代において国際社会のニーズに応えるべく、わが国及び世界の看護の質向上が望まれている。そのため、看護基礎教育のレベルから危機管理能力に優れ、国際的視野を見据えた看護実践能力をもつ人材を育成することが必要である。わが国において国際医療協力を目的とした看護職の海外派遣は、1960年代以降である。しかしながら、研究成果をエビデンスとして国際協力に携わる看護職の人材養成プログラムを構築した研究は少なく、効果的な国際看護の教育に関する研究は端緒についたばかりであり、国際看護に関する学部教育レベルでの能力開発支援はまだまだ十分とはいえない(新地 1-2), 2006)。国際保健医療の現場においては、限られたマンパワーや医療資源のもとで、多くの住民に対して保健医療活動を行わなくてはならないという困難な状況に遭遇する(新地 3) 2003, 新地 4) 2007)。それゆえに、国際看護の分野で活躍する看護師の人材育成は極めて重要である。国際看護協力に必要な能力として、これまで国際協力・看護の理解、異文化への適応力、コミュニケーション能力、国際救援時における基礎的看護実践能力・状況判断能力、問題解決能力、課題探求能力、創造性などが指摘されている(林 5) 2008, 平賀 6) 2003)が、国際医療保健活動の経験を持つ看護師が重要と認識する経験に基づいた国際看護におけるシミュレーション演習を含む教育モデルを開発したものはみられない。最近の国際情勢では、宗教対立による国際紛争や、新興感染症による死亡者の急増など、様々な危機管理が必要とされる現状である。ところが、学部教育において、国際協力に関する専門的知識と技術を携え、国際看護を実践する看護職を育成する教育モデルは、全国の看護系大学等の教育機関においても試行錯誤の段階である。これまでも、研究代表者らは国際緊急援助活動の分野で、実践的な演習を含む教育モデルの開発について研究を重ねてきた(新地 1-4))。その経験と実績を、国際看護の教育モデルの構築につなげたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、1)国際医療保健活動の経験を持つ看護師が重要と認識する国際支援活動上の課題と継続学習のニーズを明確にしたうえで、国際看護における必要な教育項目を抽出し、2)国際医療保健活動に必要な基礎的看護実践能力、状況判断能力、問題解決能力を育成するためのシミュレーション演習を含む教育モデル(学部教育レベル)の開発を行うことの2点を目的に実施するものである。最終的には、この研究成果を国際看護分野で活躍する危機管理能力に優れた看護師の人材育成に役立てるものである。

3. 研究の方法

平成28年度に、実践的な国際看護教育(国際保健に関する基礎教育・技能訓練・シミュレーション演習)の構築の準備を行い、一部の教育を試行的に実施する。平成29年度末までに、1年間以上の海外における活動経験のある看護職者約30名に自記式質問紙調査票および面談による調査を行い、大学における国際看護の教育に必要な事項および優先順位の高い項目の抽出をおこなう。平成29年度から、看護学科4年次の国際看護論(必修科目)を利用して、約60名の学生を対象として、実践的な国際看護の教育を開始する。平成29年度末までに学習環境・指導体制の整備を実施するとともに、平成29~30年度において、全国の看護系大学の災害看護教育担当教員約100名に対して、優先すべき教育項目に関する質問紙調査を行い、災害看護活動の経験のある看護師のデータとの比較を実施する。

4. 研究成果

平成28年度には、実践的な国際看護教育(国際保健に関する基礎教育・技能訓練・シミュレーション演習)の構築の準備を行うために、第一段階として、国立看護系の41大学の国際看護に関する教育を担当している大学教員を対象として、現在行われている教育内容の調査を実施した。国際看護を専門科目として教育している大学は約80%であり、そのうち必修科目としている大学は50%であった。常勤の看護職者が担当教員である大学は約60%であった。国際看護の教育内容に関しては、大学間で大きな差があることが判明した。

国際看護教育の担当教員の多くが、「国際的な視野を重視した授業内容の精選」、「国際交流による異文化理解」、および「演習による実践能力の強化」が重要であると考えていた。

また、研究協力者の野口は、国際医療支援活動に従事した147名の看護職者を対象として、彼らがどのような看護活動を実施したかについて、自記式質問紙調査により解明した。27項目の活動が実施されており、頻度の高い上位10項目について、今後の国際看護教育の中に取り入れるべく、検討を重ねた。(発表論文5)

平成29年度においては、看護学科4年生の国際看護論(1単位15時間)の必修科目において、約60名の学生を対象として、実践的な国際看護の教育を本格的に試行した。特に、発展途上国内で実際に起こった大規模な自然災害発生時における国際緊急医療援助活動をモデルにした実践的なシミュレーション演習を実施した。この演習に関しては、VTRなどの視聴覚機材を導入するとともに、危機管理に関する教育も取り入れた。

同時に、国際看護活動の経験のある看護職者 17 名からの情報提供により、教育モデル作成に必要な教育項目に関する抽出作業も実施した。また、国際緊急援助活動や危機管理には、トリアージ能力の向上が必要不可欠であると考えられた。そのため、本研究に付随して、看護学科 1 年生および 4 年生 (各 60 名) に対して START 式トリアージの教育も行い、その教育前後で 30 症例のトリアージを行なわせて、教育効果を判定した。その結果、VTR 教材を利用した START 式トリアージの教育後には、看護学生のトリアージ能力が顕著に向上することが証明された。(発表論文 3)。さらに、研究協力者の福山をハワイ大学医学部のシミュレーション教育センターに派遣して、実践的な教育に関する情報収集や意見交換を実施した。

研究協力者の石橋は、国際緊急援助活動における外科系の看護師の役割について調査研究を実施し、研究成果を、英文論文として発表した。(発表論文 4)

平成 30 年度～令和元年度においては、蓄積された国際看護の教育に関するデータや資料をまとめて分析し、実践的な国際看護の教育のプログラムの開発を実施した。国際緊急援助活動 (IDR) の災害看護活動の経験の豊富な看護職者 17 名の協力を得て、自記式質問票を使用した横断研究により、「看護系大学においてどのような教育が実践的な災害看護活動に必要なと思うか？」について自由記載の質問を行い、その回答を、内容分析により解析した。その結果をもとに、教育方法の検討を実施した。その結果、65 項目の回答が得られた。それらを分類し、19 サブカテゴリー、3 カテゴリーに区分した。上記の結果より、教育に重要な 6 項目に整理統合した。それらの項目は、1) シミュレーション教育、2) 国際看護の知識、3) 看護基礎教育、4) コミュニケーション能力、5) 人間性の涵養、6) 感染症対策である。

また、看護系大学における災害看護の担当教員 88 名と、災害看護の活動経験者 41 名が必要と考える災害看護の教育項目の相違を明らかにした。大学教員が必要と考えている項目は、「災害のサイクル」、「災害時要援護者への対応」、「仮設住宅における看護活動」、「在宅における看護活動」、「復興住宅における看護活動」、「災害看護を学ぶ意味・学習内容」の 6 項目であった。一方、活動経験者が必要と考えている項目は、「災害時の情報伝達手段」、「医療活動のための情報体制」、「災害時を想定した平常時からのネットワーク構築・連携協働の必要性や形態」、「体系的対応の基本原則」、「ロジスティックス」の 5 項目であった。(発表論文 2)

これらの研究成果をもとに、SINCHI Education Model を作成し、世界災害救急医学会の学会誌である Prehospital and Disaster Medicine に発表した。(発表論文 1)

The six elements of the SINCHI education model for disaster nursing education

Simulation: simulation exercise and small-group work education

International nursing knowledge: guidance and sharing experience

Nursing education: general knowledge and skills including disaster nursing

Communication: communication skills promotion including the ability to use medical terms in English and communicate with people from different cultures

Humanity: education about humanity, ethics, responsibility, and flexibility

Infection prevention and control: knowledge and skills for preventing the outbreak of infectious diseases

(引用文献)

- 1) 新地浩一, 他: 看護学生に対する国際緊急医療援助活動の実践的教育とその評価. 日本集団災害医学会誌 10: 293 - 301, 2006.
- 2) 前川昭子, 新地浩一: スマトラ島沖地震および津波災害をモデルにしたシミュレーション演習. 看護展望 31: 894 - 897, 2006
- 3) 新地浩一, 他: 効果的な国際緊急援助のための 3 つの提言. 日本集団災害医学会雑誌 8: 12-16, 2003.
- 4) 古川真三子, 新地浩一, 他: 国際緊急援助活動における看護師の役割. 日本集団災害医学会誌 12: 152-159, 2007

- 5) 林直子,他:国際看護コラボレーターに必要な能力モデル構築と教育プログラムの開発.国際保健医療 23(1),2008
- 6) 平賀恵子:看護管理分野において国際協力に携わる人材育成の核となる要素.国立看護大学校紀要 2(1):31-39,2003

(発表論文 1~5 については、後記の表に掲載)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Shinchi Koichi、Matsunaga Hitomi、Fukuyama Yumi	4. 巻 34
2. 論文標題 Proposal of a Model of Disaster Medical Education for Practical Risk Management and Disaster Nursing: The SINCHI Education Model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Prehospital and Disaster Medicine	6. 最初と最後の頁 438～441
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1049023X19004564	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋 公一、野中 良恵、秋永 和之、柴山 薫、梅崎 節子、福山 由美、新地 浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 看護系大学における災害看護教育の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Inclusive Education	6. 最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20744/inclleedu.7.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 AKINAGA Kazuyuki、SHIBAYAMA Kaoru、TAKAHASHI Koichi、UMEZAKI Setsuko、NONAKA Kazue、NOGUCHI Norihito、SHINCHI Koichi	4. 巻 15
2. 論文標題 Using Videos to Analyze the Effectiveness of START Education for Japanese Nursing Students	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.15.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ISHIBASHI Akina、FUKUYAMA Yumi、NONAKA Kazue、SHINCHI Koichi	4. 巻 13
2. 論文標題 The Role of Surgical Nurse in International Disaster Response (IDR) in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 23～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.13.23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Norihito, Inoue Satoshi, Shimanoe Chisato, Shibayama Kaoru, Shinchi Koichi	4. 巻 11
2. 論文標題 Factors Associated with Nursing Activities in Humanitarian Aid and Disaster Relief	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0151170	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計9件(うち招待講演 0件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 新地浩一, 松永妃都美, 野中良恵, 石橋秋奈, 田中沙恵, 高橋公一, 金丸昌憲, 山田由佳
2. 発表標題 実践的な国際緊急援助活動を含む災害看護の人材育成のための教育プログラムの提言-S I N C H I education model-
3. 学会等名 第24回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋公一, 野中良恵, 山田由佳, 金丸昌憲, 新地浩一:
2. 発表標題 看護系大学における災害看護教育に関する研究
3. 学会等名 第24回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新地浩一
2. 発表標題 国際看護学の大学教員は生き残れるのか?
3. 学会等名 日本国際保健医療学会・西日本地方会第37回大会
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Shinchi K , Matsunaga H, Nonaka K, Takahashi K, Ishibashi A, Tanaka S, Yamada Y, Fukuyama Y
2 . 発表標題 Proposal of a model of disaster medical education for practical risk management and disaster nursing -SHINCHI education model-
3 . 学会等名 The 14th APCDM (Asia Pacific Conference on Disaster Medicine) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Nonaka K, Takahashi K, Fukuyama Y, Shinchi K
2 . 発表標題 Education and training of disaster support nurses in Japan.
3 . 学会等名 The 14th APCDM (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Matsunaga H, Fukuyama Y, Nonaka K, Tanaka S, Ishibashi A, Shinchi K.
2 . 発表標題 Disaster risk reduction framework for family with children in Japan.
3 . 学会等名 The 14th APCDM (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Takahashi K, Nonaka K, Akinaga K, Shibayama K, Fukuyama Y, Shinchi K.
2 . 発表標題 Necessary factors for disaster nursing education in nursing colleges in Japan.
3 . 学会等名 The 14th APCDM (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Takamatsu M, Shinchi K, Noritake R, Yamada K.
2. 発表標題 Pacific Partnership: The potential for medical resident involvement in international humanitarian assistance operations.
3. 学会等名 The 14th APCDM (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石橋秋奈、田中沙恵、松永妃都美、新地浩一
2. 発表標題 国立看護系大学における国際看護教育の現状と課題
3. 学会等名 第31回日本国際保健医療学会学術総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	松永 妃都美 (MATSUNAGA Hitomi) (60612017)	佐賀大学・医学部・客員研究員 (17201)	